

第84回 医学教育セミナーとワークショップ

2023年1月26日(木)～28日(土) Web開催

参加登録期間 2022年12月1日(木)～15日(木) [事前登録制]

MEDTaaalk 1月27日(金)

- 10:00- MEDTaaalk1 医学教育コンテンツの共有が目指すべき未来を考える
松下毅彦(埼玉医科大学) ナビゲーター: 椎橋実智男(埼玉医科大学)
- 11:00- MEDTaaalk2 基礎医学系教員に転生したら冒険の書が読めなかった件～勇者を育てるMEDTaaalk
錦織 宏(名古屋大学) ナビゲーター: 林 省吾(東海大学)
- 12:00- オンラインWebinar 医療者教育学を学ぶ: ワークショップから修士/博士課程まで
MEDC企画
- 13:00- MEDTaaalk3 IRをもっと楽に～ツールに焦点をあてて
沼沢益行(東京医科歯科大学) ナビゲーター: 堀田晶子(東京大学)
- 14:00- MEDTaaalk4 What's a Nurse Practitioner (NP)? : 役割、資格取得方法、臨床実践について
早野紗由美(だいでうクリニック) ナビゲーター: 牛越博昭(岐阜大学) 西城卓也(MEDC)
- 15:00- MEDTaaalk5 VRと看護学教育
大田 博(福岡大学) ナビゲーター: 末次典恵(福岡大学)
- 16:00- MEDTaaalk6 外科医のサステナブルな成長を可能とする腹腔鏡トレーニング
畑中勇治(多治見市民病院) ナビゲーター: 今村清隆(四谷メディカルキューブ)

Workshop 1月26日(木)・28日(土)

- 26日(木) WS-1 わたしの学習者支援力をブラッシュアップする!
9:00-12:00 TL 川上ちひろ(MEDC) 堀田 亮(岐阜大学) 瀬戸山陽子(東京医科大学)
- 26日(木) WS-2 異文化理解のための「やさしい日本語」: 外国人模擬患者養成とプログラム開発
9:00-12:00 ML 武田裕子(順天堂大学) 岩田一成(聖心女子大学) 新居みどり(NPO法人国際活動市民中心(CINGA))
- 26日(木) WS-3 米国ナラティブ・メディスンの世界: アートから学ぶ「関係性の医療」
13:00-16:00 TL 桐山加奈子・伊藤彰一(千葉大学)
- 26日(木) WS-4 医療者教育研究、はじめの一步: リサーチエスチョンを立ててみよう
13:00-16:00 R 日本医学教育学会研究推進委員会
- 28日(土) WS-5 医療者の卒後教育の礎となる共通コンピテンシーを考えよう
9:00-12:00 CD 高橋美裕希(愛知医科大学) 田原卓矢(昭和大学) 利根川尚也(沖縄県立南部医療センター・こども医療センター) 山口佳子(東京医科大学) 横尾英孝(鹿児島大学) 吉澤悠喜(赤穂中央病院)
- 28日(土) WS-6 初心者歓迎! -医学教育学研究を教える基礎ゼミ作り
9:00-12:00 CD 山崎由花(東京医科大学) 近藤 猛(名古屋大学) 清水郁夫(信州大学)

第85回

岐阜(Web)

併催

第24回教務事務職員研修
2023/5/24-26

第86回

富山大

2023/10/6-7

第87回

岐阜(Web)

2024/ 冬

実施要項



医学教育共同利用拠点
岐阜大学医学教育開発研究センター

TEL : 058-230-6470 FAX : 058-230-6468
〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
E-mail : medc@gifu-u.ac.jp

MEDC

検索



2023
冬

医学教育コンテンツの共有が目指すべき未来を考える

松下毅彦（埼玉医科大学）ナビゲーター：椎橋実智男（埼玉医科大学）

概要： 大学はそれぞれ特色ある教育プログラムを用意し、独自の教育を展開していますが、医学教育モデル・コア・カリキュラム等にみられるように、基本的な内容は大学によらず多くの共通部分をもっています。このような共通度の高い部分については、大学間・教員間で教育コンテンツを共有することができれば、教育をより効率化できると思われます。日本医学教育学会では、このたび教育資材を共有するためのデータベースを開設しました。講義で使う医学写真、画像、イラストなどをダウンロードして自身の教育に自由に利用できます。本企画では、このデータベースの概要を紹介するとともに、試験問題や動画・音声などを掲載する将来構想もご説明します。プレゼン後は、今後医学教育者間でどのような教育資材をどのようなかたちで共有していけば医学教育の効率化と発展につながるか、今後目指すべき方向を、参加者の皆様のご意見を交えてディスカッションしたいと思います。

対象： 大学・専門学校等で医学教育を担当しているすべての教員、医学部かそれ以外の医療系学部かは問わない。また、主に卒前教育を意識しているが、卒後教育を担当している病院等の教育者も参加可能。

基礎医学系教員に転生したら冒険の書が読めなかった件～勇者を育てるMEDTaaalk

錦織 宏（名古屋大学）ナビゲーター：林 省吾（東海大学）

概要： おお、ぼすどくよ！わしは待っておった。そなたのような若者が現れる事を…。そこにある宝箱を開けるがよい。そなたの役に立つ物が入っておるはずじゃ。なんと、医学教育モデルコアカリキュラムをみつけた！さらに、医師国家試験出題基準を手に入れた！「武器は装備しないと意味がないぞ！」だが、ぼすどくのちしきが足りない！…ぼすどくは城を出た。「医学部の授業にようこそ」医学生の子供があらわれた。医学生は共用試験CBT対策をふりまいた！「もうやめて！とくにぼすどくのHPはゼロよ！」…おお、ぼすどくよ。死んでしまふとはなにごとだ！そなたにもう一度機会を与えよう。次のレベルになるには経験が必要じゃ。この部屋にいる者に尋ねれば、旅の心得を教えてくださいよう…。（注：ロールプレイは行いません）

対象： 基礎医学系教員候補者不足を嘆く大学関係者。同僚・後継者不在に喘ぐ基礎医学系教員。医療系教員を目指す学生・研究者。基礎医学の教育・教員に物申したい医療従事者・学生。基礎医学系教科書・参考書の著者・編集者など。

IRをもっと楽に～ツールに焦点をあてて

沼沢益行（東京医科歯科大学）ナビゲーター：堀田晶子（東京大学）

概要： IR (Institutional Research) は今や全ての医学部にとって、組織運営、FD、学生支援、学生教育、研究などあらゆるミッションのために必須といえますが、その実態・運用は各大学によって様々なのが現状です。特に、目的に応じた適切なツール利用においても、何を選ぶのが適切かよく分からないというケースが散見されます。そこで「楽してIRを」というスローガンのもとに本MedTaaalkを企画しました。前半ではIRツールとも関連する研究を進められている沼沢益行先生（東京医科歯科大学）にプレゼンターを務めていただき、各種ツールの利用状況に関する調査結果及びご自身の研究内容を中心に、IRツールに関する知見をご紹介します。後半では、ナビゲーターとプレゼンターのトークを通して、ツールを通じた、楽なIR活動についてフランクに意見交換を行いたいと思います。IR熟練者は勿論、IR初心者、IRは取り組んでいるけどイマイチ…という方の積極的なご参加をお待ちしております。

対象： IR初心者～中級者、医師、医学系教職員

What's a Nurse Practitioner (NP) ? : 役割、資格取得方法、臨床実践について

早野紗由美 (だいでうクリニック) ナビゲーター：牛越博昭 (岐阜大学) 西城卓也 (MEDC)

概要： 診療看護師 (Nurse Practitioner 以下NP) をご存知でしょうか？

NPは患者の「生活の質」「医療の質」の向上のために、医師や他職種と連携・協働し、倫理・根拠に基づき一定レベルの診療ができる看護師をいいます。

本邦では超高齢多死社会、医師不足・医師の長時間労働が社会問題となっており、この難局の打開策の1つとして、2008年からNPの養成教育が開始されました。NPは看護師の経験を経て大学院に進学し、医学の視点・知識を学びます。看護と医学の両方の視点を持ったNPがいることで円滑な医療を推進し、医師の働き方改革が進むなかそのタスクシェア・シフト先として期待が寄せられており、現在需要とともに注目の高まっている資格の一つです。

本MEDTaaalkでは、NP資格を取得するまでの流れ、卒後教育、具体的活動・実績についてご紹介しつつ、今後の展望や課題にも言及したいと思います。

対象： 看護師・看護学教育者・医師・その他の医療従事者

VRと看護学教育

大田 博 (福岡大学) ナビゲーター：末次典恵 (福岡大学)

概要： 近年、医療者教育においてXR (Cross Reality, Extended Reality) を活用した取り組みが報告されるようになってきました。XRとは、VR(Virtual Reality)・AR (Augmented Reality) ・MR(Mixed Reality) ・SR

(Substitutional Reality) の総称で、リアル世界とバーチャル世界を融合するテクノロジーであり、看護学教育においてもタスクトレーニングや対象の状況理解を促すために有効であると考えられます。本企画では、主に、看護教育における今日的課題を踏まえ、VR(Virtual Reality)について概観し、実際の活用経験から得た教育的な効果や、教授上の課題を提示し、参加者と共有します。

対象： 看護学教育者・大学院生・臨床看護師・その他医療者教育者

外科医のサステナブルな成長を可能とする腹腔鏡トレーニング

畑中勇治 (多治見市民病院) ナビゲーター：今村清隆 (四谷メディカルキューブ)

概要： 外科医の修練において、On the Job Training(On-JT)と同等にOff the Job Training(Off-JT)が重要とされている。特に近年は腹腔鏡手術の普及に伴い診療科毎の技術認定制度が定められ高い技術が求められるが、On-JT、Off-JTともに技術取得への修練の内容がプログラムとして定められてはならず各自に委ねられているのが現状である。On-JTは施設の手術件数や外科医自身の勤務状況に大きく左右される。一方、Off-JTの一つであるドライボックス・トレーニングは自宅や施設内でいつでも誰でも手軽に取り組むことができるといった大きなメリットがある。これは今後の課題とされている働き方改革の実施や外科医のワークライフバランスを見据えた、持続可能な修練を可能にすと考えられ、若手外科医を中心に更なる普及が望まれる。我々の取り組みとして、施設内の若手グループやSNSを介したグループでの腹腔鏡トレーニングの交流や練習会を行っている。これまでの取り組みや今後の展望について紹介したい。

対象： 医師・技能トレーニングに興味のある医療者教育者

わたしの学習者支援力をブラッシュアップする！

川上ちひろ (MEDC) 堀田 亮 (岐阜大学) 瀬戸山陽子 (東京医科大学)

概要： 学習者支援は目の前の学生が持つ支援ニーズに教職員が対応することである。学生に関わる教職員は、支援ニーズがある学生の支援をする機会がいつ訪れるかわからないため、日ごろから基本的な知識を得ておくことは大切であると考えます。

学習者支援の実践を経験学習モデルにあてはめて考えてみると、日ごろの学習者支援の実践や経験（具体的経験）、ふりかえり（内省的反省）、次の機会や別の学生への展開（概念化・抽象化：さらに知識の獲得を行う）、次の実践（能動的実験）のサイクルを自ら実践しながら学習者支援しているともいえる。

このワークショップでは、この経験学習サイクルの一端を担うべく、学習者支援における自身の困りごとから出し合うことから始めていく。出された困りごとをまとめ、学習者支援の実践に生かせる学習コンテンツ一覧の作成につなげる。

対象： 学習者支援（主に卒前）に関心がある教職員

定員：20名

異文化理解のための「やさしい日本語」：外国人模擬患者養成とプログラム開発

武田裕子 (順天堂大学) 岩田一成 (聖心女子大学) 新居みどり (NPO法人国際活動市民中心 (CINGA))

概要： 「やさしい日本語」とは、“相手に合わせて分かりやすく伝える日本語”を指します。近年、特に外国人とのコミュニケーションに役立つとして、多文化共生の文脈で普及が図られています。「やさしい日本語」は、異文化理解や「健康の社会的決定要因」への理解を深めるきっかけとなり、医学・医療者教育、特に多職種間教育の有用なテーマです。本WSでは、「やさしい日本語」の講義に続き、実際の医療現場で外国人患者への説明に困った事例、ことばが伝わらなかった事例をもとに、外国人模擬患者を交えてグループワーク (GW) を行います。当事者が学びに参加することの意義を体験していただき、その上で、外国人模擬患者のリクルートや養成法について紹介します。そしてことばの問題だけでなく、文化や生活の違いを踏まえて診療できる医療者育成法のためのプログラム開発に向けて意見交換を行い、最後に全体で共有します。

対象： コミュニケーション教育を行う医療系学部教員、多文化共生に関心のある教員・医療者・学生

定員：25名

米国ナラティブ・メディスンの世界：アートから学ぶ「関係性の医療」

桐山加奈子・伊藤彰一 (千葉大学)

概要： ナラティブ・メディスン(NM)は、2000年に米国コロンビア大学で創設された医療者教育プログラムです。医療者は、客観的な判断を重んじるあまり、また奉仕の精神の根深さなどから自己を押し殺しがちであり、その結果、患者さんとの関係性が一方向になりがちです。NMは、医療者と患者さん双方が人間性を回復し、互いを尊重する中に生まれうるケアのプロセスを重視します(関係性の医療)。ワークショップでは、アート作品に時間をかけて向き合い続ける中で、自己との対話を通じて他者の世界に接近し、関係性を築く練習をします。また文章を書く練習や、グループメンバーとの対話を通じて集団で意味づけをする練習をすることで、病いの経験に新しい意味づけを共同構築するという物語能力を養います。関係性の医療を体得することで、患者さんとの対話の質が高まります。また医療者自身も尊重される経験により、医療者レジリエンスやエンパワメントの向上も期待されます。

対象： 本テーマに興味がある医療者、学生

定員：20名

医療者教育研究、はじめの一步：リサーチクエスチョンを立ててみよう

日本医学教育学会研究推進委員会

概要： 質の高い研究を行うためには、研究を始める前に、目的を明確にし、十分に準備し、適切な方法を選択することが不可欠です。医療者教育分野の研究が盛んになりつつありますが、いざ始めようとした時、どのような研究テーマにしたらよいか、迷うことが多々あります。どのようなリサーチクエスチョンが重要なのか？ 先行研究をどうやって検索するのか？ 実行可能性は？ どのようなフィールド・方法・協力者を得たらよいか？など、1人で考えるのは大変です。本ワークショップでは、タスクや他の参加者との議論を通じて、リサーチクエスチョンを立てるプロセスを学び、個々のニーズに合わせて研究をブラッシュアップすることを目標とします。

対象： 医療者教育に関する研究を具体的に検討している方（職種は問わない）

定員：10名

医療者の卒後教育の礎となる共通コンピテンシーを考えよう

高橋美裕希（愛知医科大学） 田原卓矢（昭和大学） 利根川尚也（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）
山口佳子（東京医科大学） 横尾英孝（鹿児島大学） 吉澤悠喜（赤穂中央病院）

概要： 医師と歯科医師は卒後2年間の臨床研修が必修化されていますが、その他の医療者の卒後教育は定められたものではなく、各施設の指導者が実務と並行した教育体制の構築に腐心しています。卒後教育に関して、様々な医療機関から多職種の指導者が集って懇談する場は限られ、悩みを抱える指導者は少なくありません。本ワークショップでは、理学療法士、臨床工学技士、医師が講師を務め、参加者の皆様と「これだけは全ての医療者が獲得すべき能力＝卒後教育における医療者共通コンピテンシー」を作成し、さまざまな文脈の医療者教育の中に、共通の礎となる1ピースの創造を目指します。

対象： 医療者の教育を担当している方、医療者の教育に関心のある方

定員：25名

初心者歓迎！—医学教育学研究を教える基礎ゼミ作り

山崎由花（東京医科大学） 近藤 猛（名古屋大学） 清水郁夫（信州大学）

概要： 医学部では、研究マインドの涵養のため、学生は、一定期間、基礎ゼミと称し基礎医学講座で研究に専念する。医学教育学講座も基礎ゼミの対象だが、医学教育学は、学部教育で体系的に教えられておらず、学生に前知識がない。教員は学生に医学教育学とその研究を如何に教えるか皆で考える。ワークショップ(WS)は、講義、グループワーク、発表から構成される。山崎が東京医科大学で行った自主研究と受講生の意見の紹介、外部講師の近藤と清水の「医学教育研究の伝え方」の講義後、参加者はグループで医学教育研究の基礎ゼミの到達目標や方略を考案、発表し、議論する。令和4年度の医学教育モデル・コアカリキュラムから「同僚や後輩の教育に貢献できること」や、「人文社会科学の研究手法を体験し理解すること」が医学生に必要な能力・資質として加わる。当WSが提案する医学教育学の基礎ゼミはそれらの能力や資質を涵養する手段として有用であると考えます。

対象： 医療系学部の教員、大学院生、学部生

定員：15名

参加登録方法

MEDCホームページよりお申込みください
「MEDC」で簡単検索できます

参加登録期間：2022年12月1日(木)～15日(木)

参加を希望される方は、上記期間内に参加登録をお願いします。
各企画には定員を設けています。申込順にて受付いたしますので、ご了承ください。
なお、当日参加は受付いたしません。

参加費： 2,000円
(学部学生、東海国立大学機構教職員大学院生 無料)

開催方法： Zoom (Web会議システム)

医療者教育学の基本を教職協働で学ぶeラーニングプログラム

“医療者教育学スターキット”

- ★ 医療者教育機関で働き始めたばかりの教員、職員
これから医療者教育学を学んでいきたいかたにむけた
プログラムになっています。
- 🌙 新任の教員、事務職員にむけたFD/SDプログラムの
1つとしてご利用いただけます。

スターキットは
こちらから↓



詳しくはMEDCのHPで↓

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/medicaleducation/starterkit.html>

MEDCが提供する学びの宙

全国の医療者教育に従事する人を対象として、
“人材育成者の育成”に取り組んでいます。

